



カケハシ・プロジェクト（米国）

高校生オンライン交流（公立センテニアル高校、福山市立福山中・高等学校）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】本プログラムは、米国ネバダ州公立センテニアル高校の日本語クラスを履修している生徒と広島県の福山市立福山中・高等学校の生徒が、双方の学校紹介やテーマに沿った生徒同士での少人数交流を通して、参加者同士のネットワークを強化し、相互理解を促進すると共に、国際交流を推進することを目的として実施しました。

【参加者】公立センテニアル高校、福山市立福山中・高等学校の生徒 合計 39 名

（内訳）公立センテニアル高校 19 名

福山市立福山中・高等学校 20 名

【訪問地】広島県

【日程】

■ 高校生オンライン交流：2024 年 11 月 15 日（金曜日）

1. 開会

一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

2. 挨拶

外務省北米局北米第一課 外交実務研修員 中山 大輔 氏

3. 福山市立福山中・高等学校による学校紹介

4. 公立センテニアル高校による学校紹介

5. グループに分かれて交流会（各 15 分、計 3 回）

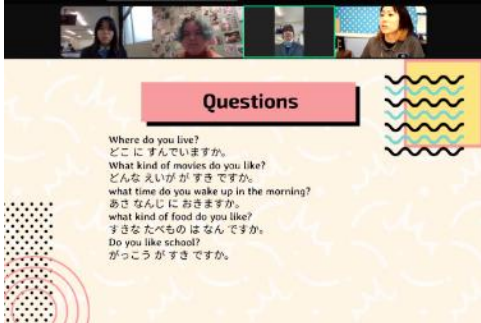
6. 各校生徒代表によるスピーチ

7. 記念撮影

8. 閉会

2. 記録写真

網引き(tug of war) It is a competition in which two teams tug one rope against each other. 二人三脚(tripod for two) A competition in which two or more people-tied run together.	
【学校紹介】福山市立福山中・高等学校	グループに分かれて交流会

	
グループに分かれて交流会	グループに分かれて交流会
	
【生徒代表スピーチ】公立センテニアル高校	記念撮影

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 米国 高校生

今回のプログラムで印象的だったのは、お互いの言語を教え合えたことと、日本の文化を垣間見ることができたことです。

◆ 米国 高校生

日本の高校生と話をし、彼らの生活について多くを知ることができ、楽しい時間を過ごしました。アニメや映画などを通じてお互いに繋がることができたのが良かったです。

◆ 日本 高校生

交流相手が今回のためにスライドを用意してくれていた事が印象に残りました。また、母国に住む私達でさえ難しいと感じる日本語を一生懸命話してくれていたことから、彼らの意思と行動力に驚きました。今までともに海外の方々と話したことがなかったので英語が伝わるか不安でしたが、何とか自分の思いを伝えることができたと思います。

◆ 日本 高校生

米国の生徒も日本語で質問をしてくれたことが印象に残りました。また、聞き取れなかったら丁寧にもう一度話してくれたので、とても話しやすく有意義な時間でした。米国の学校の生活の様子を知ることができ良かったです。米国でも日本のアニメやお菓子や音楽などが親しまれていることを知り驚きました。米国の放課後の部活動がどのようなものなのかももう少し詳しく知りたいと思いました。とても良い経験になりました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 日本 学校職員

生徒たちは、まず準備の段階でスライド作成や英会話の準備をし、しっかりと成長してくれました。本校は、オーストラリアと韓国に交流校がありますが、米国の学生と話す機会は限られていますので生徒たちは大変喜んでいました。直後に実施した振り返りのセッションでは、今回のプログラムで意思疎通ができて嬉しかった反面、できなかった部分をそれぞれの成果と課題として頑張ると言っていました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

	
2024 年 11 月 15 日（Instagram） 今夜のカケハシ・プロジェクトより	2024 年 11 月 15 日（福山市立福山中・高等学校の HP） 11 月 15 日（金）アメリカ合衆国ネバダ州ラスベガスにある公立高校のセンテニアル高校とオンラインで交流しました。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）